

あなたはイエス様につまづきましたか？

だれでも、わたしにつまづかない者は幸いです。

ヨハネの6章には、イエス様の教えの後、多くの弟子たちがイエス様のもとを去って行ったことが書かれていますが、なぜ弟子たちはそうしたのでしょうか？ おそらく、イエス様は弟子たちが期待していたことをしていなかったからです。同じ様なことは、ルカの7章にもみることができます。バプテスマのヨハネが「あなたがその人ですか？」と質問をしたときのことです。もし私たちが、イエス様がするだろうと望むように神様が行われなければ（病人を癒したり、人々を治したり、私たちの人生の問題を解決しないとしたら）、私たちはイエス様に背を向けるのでしょうか？

私たちが悲劇やひどい苦しみに出会うとき、何が起こるのでしょうか？ 神様がどのようにヨブの状態に答えられたか覚えていますか？『わたしが地の基を定めたとき、あなたはどこにいたのか』（ヨブ 38:4）。神様がヨブに、その苦しみの理由を決して与えなかったことに気づいてください。それでも、イエス様が説明なさろうとしないとき、私たちは背を向けようという誘惑にかられてしまうのでしょうか？

もし私たちが、ペテロが尋ねたのと同じ質問、「私たちは誰のところに行きましょうか?」というような問いに向かい合わなければならないとしたら? ある人たちは配偶者や友達に信頼をおき、その人のところに行き、その人がくれる知恵やなぐさめ、友情や力に頼ります。しかし、人間はそのような重荷に耐えることができません。頼りとする彼らにも、弱さや彼ら自身の必要があります。イエス様にかわる代用品はありません。主ただ一人だけが私たちを創造し、贖い、そして支えると約束しているのです。

祈り お父様。あなた一人が神様であり、力と知恵と生命の源です。あなたがどのように働かれているかを私が理解しないときは、私の信仰を高めてください。暗闇の中にいても、あなたを信頼できるように私を助けてください。

イエス様の御名において。アーメン。

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

翻訳 海 澤 弘 美

編集 岩田欣三

御茶の水キリストの教会

11月5日(火)

## 私は両手を上げるでしょう

聖書朗読 ヨハネ 8:21~30

わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます。 ヨハネ 12:32

イエス様は、『わたしが地上から上げられるなら、わたしはすべての人を自分のところに引き寄せます』とおっしゃいました。すべての人？ そうです。すべての女たち、男たち、そして子どもたちをイエス様が上げられるのです。

しかしながら、イエス様が上げられるのに二つの道があります。私たちがイエス様をほめたたえるか、もしくは私たちがイエス様を十字架にかけるかです。詩編 63編4節は、『私は生きているかぎり、あなたをほめたたえ、あなたの御名により、両手を上げて祈ります』と言っています。イエス様一人だけが救うことができるのです。ですから私たちはイエス様を、私たちの罪を担ってくださる代用として上げるのです。

しかし、イエス様を上げるのに別の方法もあります。イエス様は言われました。イエス様が上げられるときには、すべての人を自分のところに引き寄せざるであらうと。『イエスは自分がどのような死に方で死ぬかを示して、このことを言われたのである』（ヨハネ 12:33）。もちろん、その死は十字架にかかることによってでした。天国と地上の間の十字架に上げられることによって。ですから、罪の犠牲としてイエス様を十字架刑にする、または十字架に上げることにすべての人々が事実上参加したことになるのです。

中立の立場、もしくは主に何も逆らいたくないという人もいたでしょう。しかしそれは不可能なことでした。私たちは両手を上げて、私たちの大切な主を讃えながら日々を生きなればなりません。さもなければ、私たちは十字架刑を支持した人々に加わることになるのです。

讃美歌 第二編 185

祈り 天国のお父様。あなたの子であるイエス様という表現することもできないような素晴らしい贈り物をくださったことに感謝します。私たちは、私たちの主を十字架にかけたという罪に背を向けます。そんな私たちの心を新しくしてください。

主の偉大な御名のもとに。アーメン。

ビル・ヘネガー

カリフォルニア州 ウェストレイク ヴィレッジ

11月6日(水)

## 私は自由です！

聖書朗読 ヨハネ 8:31~38

そこでイエスは、その信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたが、わたしのことばにとどまるなら、あなたがたはほんとうにわたしの弟子です。そして、あなたがたは真理を知り、真理はあなたがたを自由にします。

ヨハネ 8:31~32

私は女子刑務所で教える名誉を得ています。私が新しいクラスを教え始めたとき、女性たちにカードに自分の名前を書いてもらい、そのカードと対になっている反対側のカードには自分が興味のある何か、または自分を描写するようなものを書いてくれるように頼みました。ドウナの順番がきたとき、彼女は蝶の絵を描きました。私はきっと彼女は蝶が好きなのだろうと思いました。しかし、彼女は特には好きではないと言いました。彼女が蝶を描いたのは、蝶は彼女にとって自由を意味するからでした。なんと、今いるところで、彼女は自由を感じているのです。私は、彼女が刑務所の中にいて、いったいどのように自由を感じることができるのだろうかと思いました。彼女は、ここにはドラッグや誘惑からの自由があり、その自由を愛していると説明しました。私は、刑務所を出た後も自由を感じることを学んでほしい、と彼女に話しました。

私たちはキリストの中にある自由を喜んでいますか？ イエス様は今日の朗読箇所、罪をおかす人はだれでも罪の奴隷となるとおっしゃっています。そのことはドウナを含む私たち全員にも同じ意味を持ちます。私たちは皆、蝶のように自由になることができるのです。福音のために神様を讃えなさい。

讃美歌 第二編 173

祈り 親愛なる主よ。私たちは真実を知ることによって罪から自由になることができることに、あなたのお言葉に続きながら、あなたの弟子となることに感謝します。私たちがその自由の中で、喜びに満ちながら生きられますように。

イエス様の御名において。アーメン。

スーザン・ギボニー

カリフォルニア州 マリブ

11月7日(木)

## その明かりをつけなさい！

聖書朗読 ヨハネ 9：1～12

近所の人たちや、前に彼がこじきをしていたのを見ていた人たちが言った。「これは  
すわって物ごいをしていた人ではないか。」 ヨハネ 9：8

ちょっと前のことです。私はハイスクールからの古い友人にたまたま出会いました。彼とはほとんど20年ぐらい会っていませんでした。私たちが一緒に学校にいたころを振り返ってみると、信仰は彼にとって余り重要ではありませんでした。ですから私は、彼の口から牧師職に関する仕事をしているとの最初の言葉を聞いたとき、とても驚きました。イエス様に会った後の人々の変化を認識することが難しいことが時々ありますが、まさにそれでした。

私たちが今日出会う人々の多くが、暗闇の中でつまずいています。彼らは見る事ができないでいるだけなのです。しかし、もし私たちが注意深くないなら、彼らを不要とみなしてしまうでしょう。

しかし、すばらしい神様の恵みが人々をイエス様に遭遇させ、今日の聖書の箇所にてでくる男のように、光がその人のもとにやってくるのです！そして、それが起こるとき、それはその人の全体を変えます。そしてときにはその人の内に住んでいる聖霊が、その人がそのことを悟るのを難しくしたりします。ああ、ですから、私たちが見る目をもてば、人々がキリストの中にいると見る事ができるのです！

キリスト教の一番重要な宣言は、

「これが起こる！」ではなく、

「これが起こった！」である。

———エブリン アンダーヒル

讃美歌 第二編 7

祈り 親愛なる主よ。あなたの目でもって見る事ができるように私たちを助けてください。そして、あなたが私たちの目を開いたのと同じように、友達や隣人の目を開いてください。そうして、私たちが彼らの心を見ることができるよう助けてください。彼らが私たちを通してあなたを見ることができるよう。

あなたの御子の御名において祈ります。アーメン。

ウェス・ホーン

テキサス州 スタムフォード

11月8日(金)

## ラザロよ、出て来なさい

聖書朗読 ヨハネ 11：1～10

「主よ、もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」  
ヨハネ 11：32

かつて、ある懐疑的な人がマーシャル・キーブル牧師にこう尋ねました。「祈りが効いているのなら、なぜイエス様は『ラザロよ、出て来なさい』と言わなければならなかつたのでしょうか？」。キーブル牧師は微笑みながら答えました。「なぜなら、もしイエス様がラザロの名前を呼ばなかつたなら、冥界のすべての死者がよみがえってしまったでしょうから」。私はこれを記憶から書き直しています。

イエス様がご自分の友人の死をどのように扱われたかその解釈の仕方について悩む人がいます。確かに、そこには私たちを懐疑的にする要素があります。主がベタニヤに急いで出向き患っているラザロを治していたら。しかし、主はベタニヤに急ぐかわりにそれを延期し、おられた所になお二日間とどまられました。なぜ？ 私にはまだその答えがわかりませんが、イエス様がなさったすべてのことは神様の栄光のためであり、人々がそれを信じるようになるためだということはわかります。

ラザロは、イエス様の足に高価な香油を髪の毛で塗ってくれたあのマリヤの兄弟でした。イエス様が最終的に到着してマリヤとその姉妹のマルタが悲しんでいるのを見つけたとき、イエス様は泣きました。それは絶望からではなく、その姉妹たちの悲嘆を分かち合うためでした。そして私たちが知っているように、イエス様は人間の想像を超える方法をもってその姉妹を祝福したのです。このイエス様は、私たちのイエス様でもあります。私たちを思いやり癒してくださる方です。私たちの救い主にハレルヤ！

讃美歌 148

祈り 天国のお父様。私たちは、あなたと私たちの主、そして死ではなく生命の主なる救い主を礼拝します。私たちが毎日あなたに仕える事ができるように、キリストの内にある新しい命を私たちにください。

イエス様の御名において。アーメン。

スティープン・クラーク・ゴード

カリフォルニア州 ブライゼ

11月9日（土）

イエス様はあの人を死なせないでおくことはできなかったのか？

聖書朗読 ヨハネ 11：28～37

イエスは涙を流された。

ヨハネ 11：35

『イエスは涙を流された』は聖書の中で一番短い節です。そして私たちが一番初めに覚えたいと思う節です。しかし最も大切なことは、この節が私たちにイエス様の思いやりについて思い出させるということです。

今日の聖書朗読は、ラザロの死についてです。人生の悲劇は今でも起こります。ひどい自動車事故。ぞっとするような殺人。不治の病での痛々しい死。ヨハネの11章のユダヤ人たちのように、「神様はこれが起こるのを防ぐことができなかったのか？」とか、「なぜこんなことが私たちに起こったのか？」などと惑い、神様がこのような悲劇の中どこにおられるのかと思うことはたやすいことです。そしてそれは、私たちのたましいを揺らしたり、信仰を砕いたりするには十分なのです。

悲劇が起るとき、私たちに神様の世話が必要だということを覚えていなければなりません。私たちが悲劇を通り越す間、神様は私たちと一緒に泣いてくださいます。ちょうどイエス様が人々の悲しみを知っていて、ラザロをよみがえらせた時その悲しみが終わったように、私たちは神様には未来の計画があることを知らなければなりません。私たちはこの痛みの中に永遠にとどまることはないのです！

イエス様は今でも私たちが傷つけば泣くでしょう。しかし、イエス様の永遠の命のための計画は私たちが持てる最高の希望なのです。この世での命にやってくる悲劇は、私たちを待っている永遠の命の喜びには比べようありません。

讃美歌 128

祈り 親愛なる主よ。人生に悲劇が訪れるとき、私たちはとても傷つきます。あなたの御子が流した涙に、そしてあなたの計画が永遠に続くことに感謝します。

イエス様の御名において。アーメン。

ロバート・P・ミュラン

テキサス州 フォードウオーズ

11月10日（日）

光の中を歩く

聖書朗読 ヨハネ 12：35～50

光がある間に歩きなさい。

ヨハネ 12：35

イエス様に従うことは、たびたび「光の中を歩くこと」と描写されます。しかし、息子と一緒に参加したキャンプでの出来事は、私が本当にそのことをよく理解するのを助けてくれました。

一日の活動のあと、私たちはその夜のキャンプファイヤーのために深い森の中に入り、たき火を囲んで歌を歌ったり物語を楽しんだりしました。さて時がたち、私たちはキャンプ場に戻る準備をはじめ、懐中電灯をつけました。たき火の場所からでたとたん暗闇になりました。懐中電灯の限られた光では、前方の一步か二歩ぐらいの距離しか見ることができません。私は森の中に潜んでいる何かについては考えないようにしました。私たちは手をつなぎながら、注意深くキャンプ場に向かって歩きました。

後で私は、これがたぶん光の中を歩くということなのだと気づきました。私はキャンプ場までの正確な小道を見る「必要」はなかったのです。ただどのように次のステップを踏み出せばよいか、そして暗闇の中の障害物について心配することをどのようにやめればよいか分かっていればよかったのです。私の精神的な旅において、光の中を歩くにはただイエス様を信頼することだけが必要なのです。次のステップをとること、そして、そうすればまた次のステップを、そしてまたその次をといった具合に、イエス様が私を最終的に家まで導いてくださるのです。

讃美歌 326

祈り 主よ。私をすべての道において導いてくださり、また、私と一緒に歩こうという信仰をもった仲間を与えてくださることに感謝します。

イエス様の御名において。アーメン。

パット・ダジェット

ノースカロライナ州 ダラム